

本検討会での検討事項

ハザードマップのユニバーサルデザイン
に関する検討会(第3回)
令和4年7月22日

本検討会での検討事項

- ワーキング会議では、複数の媒体を通じて、ハザードマップの「地図面」に記載されている水害リスク情報の一部(浸水深等)や避難所の場所などを提供することができた。
- ・ 地図面に記載されている水害リスク情報を理解し、避難行動につなげるためには、ハザードマップを理解するための前提となる **河川や水害に対する基本的な知識が不可欠** である。
 - ・ **音声により、個々人の居場所のハザード情報を入手できることは有効** であることが確認できた。

1. 地図面の理解を深めるためには
 - ・ **水害発生メカニズム**(雨から氾濫発生までの流れ)
例: 河川の氾濫はどのようにして発生するのか？
 - ・ **洪水の特性や怖さ** などを知ることが必要
例: 水害で命を落とすのはどのような状況なのか？
2. 水害への理解を深めることで
 - ・ **個人の生活環境に即した避難行動** を選択することに繋がる
 - ・ 避難行動の選択肢の提示
例: 避難場所への移動 or 垂直避難・屋内安全確保
等

次の展開

ハザードマップの「**情報・学習面**」の充実
(資料4)

1. あらゆる主体のアクセシビリティを高めるために
 - ・ **音声によりハザード情報を発信** する
例: チャットボット
2. ハザードマップWebサイトのアクセシビリティを高めるために
 - ・ **音声読み上げソフトで利用することを前提としたWebサイトの構成** とする必要がある
3. 地図面へのアクセシビリティを高めるために
例: ある地点の **浸水可能性・深さ** の読み上げ

次の展開

Webアクセシビリティへの対応
(資料5)